

COP10先住民族ニュース No.2

発行日 2010年10月20日

発行 COP10先住民族ニュース取材班

COP10の本会議、2日目(19日)

午前 臨時全体会の最後に、議長が先住民族代表に声明を読むことを許可し、ボリビア・アイマラ民族のマリア=エウヘニア・チョケ=キスベさんが、昨日の記者会見ですでに発表した IIFB の COP10 開会にあたっての声明のスペイン語版を読み上げました。

声明内容は <http://bit.ly/indigenews> と <http://iifb.indigenousportal.com> に各言語版がアップされてます。IIFB は「生物多様性に関する先住民族国際フォーラム」(CBD 交渉への先住民族代表の合議体)です。(HK)

午後 海洋と沿岸の生物多様性作業部会では、太平洋地域から参加している Hau'oliipo Waiiau さんが声明を発表。サイドイベントでは、「CBDにおけるローカルコミュニティの役割」が開催され、先住民族がこれまで運動で確立してきた権利をどう守っていくのか、ローカル・コミュニティではなく、トラディショナル・コミュニティとして扱うべきではないのか?またアフリカの文脈からみた、先住民族とローカル・コミュニティの位置づけなどが議論されました。

夜 IIFB 主催のレセプション。日本のアイヌ民族をはじめとして、世界各地の先住民族の人々が参加し、歓談し、また歌や踊りを楽しみました。(AY)

COP10作業部会(10/19)

午前から作業部会が立て続けに入り、いよいよ本格的な交渉がスタートしました。朝から先住民族はミーティングを行っており、準備室内は緊張感に包まれていました。(NY)

COP10 「海洋と沿岸の生物多様性」作業部会、午後の部で、UNEP、IUCN などに続き IIFB (生物多様性に関する先住民族国際フォーラム)が発言、先住民族の伝統的資源管理の知識の尊重などについて カナカ・マオリ民族のハウオリポ・ワイアウ Hau'oliipo Waiiau さんが IIFB の声明を読み上げました。

声明では、海の資源の利用についての伝統的知識と先住民族による管理慣行を尊重すべきであること、保全策立案にあたっては完全に効率的な参加を先住民族に保障することが必須であることが、まず指摘されました。

また、海洋への鉄粉散布など人為的な肥沃化技術に反対する先住民族フォーラムの統一意見を表明しました。海洋生態系の保全策においても、CBD 第 8 条 j を活かした検討を求めました。(HK)

今回 COP10 で大きな論点となっているのは ABS ですが、先住民族のもつ伝統的知識は ABS と大きな関わりをもっています。したがってこのスピーチでも伝統的知識についての言及が頻繁になされていました。

このスピーチが終わると先住民族は笑顔を浮かべ、彼女を称えました。準備会合や本会議中の空いた時間を利用して何度も討議を重ね、練り上げられた鋭利な主張は、このようにして発信され、認識され、プレゼンスを増していくのだと感じます。多様なアクターの重要性が国際社会で相対的に増大しつつある今日、依然として主権国家体制が原則である国際社会において、民主主義とは何を意味するのかを考えられずにはいられません。(NY)

IIFB主催レセプション

この日の夜は IIFB 主催のレセプションが開かれ、盛大なパーティーが催されました。

会議中のピリピリした雰囲気とは一転し、先住民族は民族衣装で身を包み、穏やかな表情を浮かべ、華やかな舞踊は会場を彩ります。どの民族にも共通することは歌があることです。それぞれの先住民族のそれぞれの歌の内容が何を意味するかまでは把握しきれませんが、おそらく土地と土地が提供する恵み、そして彼らの神々に感謝しているのではないのでしょうか。

本当に楽しそうに歌い、踊る彼らを見てみると、こっちまで幸せな気分になります。おいしい料理とお酒、そして歌踊りがあれば誰でもハッピーになれるのは、どうやら世界共通のようです。(NY)



インフォメーション

IIFB 主催のサイド・イベント

「農業生物多様性と食の安全保障に関する先住民族の知恵 INDIGENOUS WISDOM FOR AGROBIODIVERSITY AND FOOD SECURITY」

日時：2010年10月21日(木)

場所：CENTURY HALL - Bldg 1 - 1st Floor

COP10 先住民族ニュース取材班

ブログ記事を整理したものです。

COP10 開催期間中の連絡先：第二ビル 234 ルーム

詳細は <http://indigenusnet.blog75.fc2.com/>